我國幼兒教育の急務

（家庭教育尊重）

文部省社會教育課長　乘杉嘉壽

幼兒の保護、教育の問題が、甚だ重要な事と考へらるゝ樣に成て來た事は、誠に喜ぶべき事である。即ち「子供の世紀」とさへ云はれて、近來は、教育の出發點を此處に求めんとする傾向が、一般教育者にも、亦家庭に於ても氣付いて來た事は頗る當然な事ではあるが、此處へ來るまでには、相應の深い原因があるのである。殊に歐洲大戰をへたる歐羅巴の各國に於ては、其の失はれた多數の少壯の國民の補充、又多年に亙る戰時中に生れたる子供の素質の良くない事と、更に戰爭より受けた、一般經濟界の打擊よりして子供の教育の上に、大なる缺陷を生ずるに至つた、と云ふような、現實の必要にせまらるゝ事が、其の最も主なるものと云はねばならぬ。

彼等、歐洲の國民に於て斯樣な勝利の急務として、此問題を考慮し盡力して居る間に、――我國に於ては、以上の如き現實の必要にせまられたわけではないが、元來我が國の兒童の養育に對する徹底と云ふ事が、彼の國のそれに比して、甚だしき懸隔を見る實狀にあるからして、彼等が其大なる缺陷を補ふ事に努力して居る間に、――我等が其の舊態を改めずして、一日を忽にしたならば、數年ならずして、彼等は其缺陷を恢復した上に又更に大なる進歩を遂げて、此處に更に大なる懸隔を生ぜねばならぬ狀況の下にある事を我等は自覺せねばならぬ。

成る程我國の、家庭に於ては、子を愛する事は、我が大和民族の傳統的の一大特長で、親の子に對する愛情、從て子の親に對する愛情の深い事は、他のどの國も其の右に出るものは無いと思はれる。老たる者の、幼き者に對する態度は、愛が中心である、愛の中心であると云ふ事は、自然の理である。西洋の先哲が、教育の根本を說くに、愛の教育を以てしたと云ふ事は、むしろ我々にとつては新しい考とも思

はれぬ。當然のことである。

教育は、愛によつて出發しなければならないと云ふ事は、蓋し古今東西を通じての眞理であらふ。我國の人が、子供を愛すると云ふ事に於ては、此の教育の根本に對して、誤らざる考を持ち又其の實行をなして來たと云ひ得るのであるが、さりながら、我が國の習慣としての、子供を愛すると云ふ心狀は、自然界の現象として見らるゝ、一般動物の、其の子を愛すると云ふ場合と、何等異てゐない愛情の發露と見ても差支ないまでに、盲目的のものであつた。子供を養育する場合には、子供を愛する、と云ふ事が第一要件だが、其の愛は徹頭徹尾合理的なものでなくてはならない。古の諺に云ふ「ひいきのひきだほし」と同じ事で、子供を眞に愛するならば、其の愛が理性に依て導かるゝ事が頗る大切な事である。然るに、此の點に於ては、遺憾ながら我が國の人達は、所謂盲目の愛に溺れて正しき、且つ、雄々しき子供を作る事には、甚だ不得手であつた。其の證據には現代世界に國をなすものゝ中で、文明國と呼ばれ又强國と數へらるゝ中で、我が國位ひ生れた子供を其の幼年の間になくなす國は殆ど無いのである。

卽ち當歲の子供で見れば、千人に就いて二百六七十人の子供は必ず死亡して行くのである。五歲までの幼兒に就て云へば、千人に就いて三百六七十人の者は必ず死んでしまふ。嬰兒竝に幼兒の死亡率の高い國は我が國以外には、ハンガリー、チリー竝にロシアあるのみで、其の他の列强國に於ては、かくの如き子供の死亡率の高い國は、一つもない。子供の多く死ぬと云ふ事は、生れた子の素質の惡い事も一つの原因ではあらふが、又他の一つの原因は、子供を育てると云ふ事を知らないと云ふ事であらふ。

子供を愛する事の中で、子供の生命を維持する事は、第一の條件でなければならない。その生命を維持する點に於て、既に我が國は落第者中の筆頭にあるわけで、更に、其の子を强くすると云ふ事が第二の條件でなければならない、しかるに此の點に於ても、日本の國民が、其の體質、體力、竝びに體格に於て歐米列國の國民の其れにくらべて、甚だ劣つたものである事は否みがかい事實である。これ亦養育の方法に、大なる缺陷のある事を證明するもので、唯我が國民族の天禀の然らしむるものであると自暴自棄すべきではない。人爲的に改良し、改善して優種

の民族とすべき筈である。が、體格に就ては我が國のみにあらず一般に漸次劣て行ても善くなると云ふ事の確信は得難い。我が國丈の狀況で見ても、成る程新しき教育で、兒童生徒の身長は增した、さりながら、胸圍と體重は之に伴はずして昔の人の强健さに比べて、一般にかよわい者が出來て來ると云ふ傾向が看取される、殊に近代盛となつた都會生活の增大につれて、所謂ヒョロナガき者が殖えて、外國に於ける都會生活に於ても通じて見る事の出來る弊害は我が國民の中に遺憾なく之を見る事が出來る樣になつた。

物質的、肉體的に何等の進步をみる事が出來ないばかりでなく、子供を育てる上に、彼等の精神的方面に對しても、正しき、雄々しき人を作る事に、甚だ進步した社會教育が、時代に相應はしく計畫せられ、實施されて居ないと云ふ事も亦事實であつて、我が國の未だ他國と交りを結ばざる時代、卽ち封建時代の家庭教育と、今日の家庭教育とを比較してみればむしろ今日は大いに遲緩した狀態が看取される。

教育の出發點は、家庭であつて、家庭が教育の道場であると云ふ觀念は、昔の人に比してむしろ稀薄に成た感がする。それは、一面學校教育が進んだ爲に、子供の教育は學校の責任で、家庭は子供の衣食を供する位に考へる人が甚だ多く成たのではなからうか。

成る程、學校は分業的に子供の教育の或方面を分擔して、五十年百年前の一般國民の教育よりも、よほど進んだ働きを爲てゐるであらう。さりながら教育は、かくの如き學校教育のみで完成はされない。否、完成されぬばかりでなく家庭が無力で、學校教育が盛な處では、利口なる動物は出來るが、決して利口な人間は出來ない。

教育は、家庭が第一で、家庭の教育的意義を失た場合に於ては、殆ど其の效果を擧げるのは不能であつて、若し左樣な場合には之を補ふ丈の有力な學校教育が無くては、教育の成果を見る事は絕對に不能である。然るに我が國の現狀は、一般に學校教育の大切なる事は知るに至つたけれども、顧て子供に家庭のより大切である事に氣付く者が甚だ少ない。之が教育の進步して現代國民の見識なり、實行なりに、種々の缺陷を見る一大原因であつて、教育には「家

庭第一」の標語を掲げて大に國民の覺醒を叫ばねばならない。

先にも述べた樣に、子供を育てる事を知らぬ親ばかりでなく、子供を躾ける事を知らない親が最も多いのが我が國の現狀である。かつて余が米國のシカゴ公園に散歩してゐた際に、若い夫婦が五六歳の男兒をつれて同じく公園に散歩に來てゐた。すると、一つの東家に先着した此の兩親の後を追て來た其の子供は、あまり急いだ爲に、歩道でない芝地を横切つて東家に登らんとした、之を見た母親は無言のままで子供を突きのけた、父は子供に向て聲をはげまして正しき道を歩けの一言を放たのであつた。子供は、從順に云はれた通りにまはり道をして兩親の居る處に來て、嬉々として何事をか物語る有樣を見て、余は深く感動したのであつた。群衆の場所で秩序を重んじ又個人としても正しき行を敢て爲る事に、强き信念と實行力を有してゐる彼等の素養は、かくの如き家庭の教育の力に依るものである事に氣がついた、否、斯くの如き家庭の教養は、日々の躾けばかりでなく家庭精神の中心をなすそれぞれの深き信仰に依て、幼き者を導びき育くむ事が、やがて彼等の光輝ある國、品位ある社會を造り出すのであつて、日々の躾に、ものうく感ずる親、自分自らの信仰なき兩親にはぐゝまれたる現代の我が國子弟達は、甚だ同情すべきものがあるのである。否、寒心に堪へぬものがあると云はなければならない。

余は、教育の甚だ重大で、世に所謂る生産的な事業が少なくないが、一人前の人間を造り上げるほど重要な生産事業は外には無いと信ずる。一人前の人間を造り上げると云ふ事は、教育の力であつて、其の教育では、「家庭第一」の標語を必要とする。

我が國の家庭が、今少し教育的の意義を持ち、能力を增す事を焦眉中の急務であると信ずるのであつて此の點に於て我が國民傳統的の「子供を愛す」その眞情が、更に理性に依て導かれ、眞の人間の愛情の結晶である樣にさるゝ事を、切望してやまないのである。（文責在記者）